

## 初年度のサービslラーニングクラスを振り返って

石川 満

このクラスでは、23名すべての学生が1年間のサービslラーニングを無事に進めることができた。

愛知県知多半島は、全国的に見てもNPO法人が集中している地域である。高齢者・障害者等へのサービスを提供している団体が多いことが指摘できるが、それ以外にも多様なNPOがあり、それらを支援するNPOである中間支援団体「サポート知多」があることも、大きな特徴である。

これらの優れた社会資源と、学生の学びを結びつけることは、地域、NPO、学生、教員、大学のいずれにとっても重要である。いくつかの（小さな）課題は残ったものの、無事にスタートできたことを、まずは喜ぶたい。

このクラスは、社会福祉学科デイ・アフター・保健福祉学科の希望学生による混成クラスであり、半田市内の4つと大学の所在する美浜町内の1つの5NPO法人で活動させていただいた。

精神障害者などの居場所を提供している「Toピア」で1名、高齢者の小規模多機能施設「菜の花」で4名の学生がお世話になった。これらは、住宅街の中の木の香りがする1つの建物の2階部分と1階部分であり、交流もある。

半田市の乙川駅近くのスーパー「ピアゴ」の2階西側部分にあるNPO法人「エンドゴール」は、主に若者の就職相談や能力開発、チャレンジ支援などを行っている。ここでは8名の学生がお世話になり、理事長の久保さんらに大いに啓発された。

市立半田小学校及び市立半田幼稚園に隣接している半田市民参画支援センター内にNPO法人「ばお」があり、不登校の子どもたちの支援をしている。理事長の関さんは、本学の卒業生でもある。ここでは5名の学生がお世話になった。

美浜町内の古い民家を事務所としているNPO法人「チャレンジド」は、美浜町内を対象に、障害者・障害児の訪問介護を中心とした支援を行っている。本学の障害学生に対しても支援をしている。ここで5名の学生は主に障害児を対象とした活動をさせて頂いた。

事前学習・活動計画・活動の準備・そのための何種類の書類作成・夏休みを中心とした活動とその記録、後期授業での振り返り、グループ討議、グループ報告書の作成、グループ研究、これらの報告会、個人報告の作成と、全体的に見て、学生は多忙であった。それでも何とか全てをこなす「力」は身に付いたように感じている。

実際に現場に出向き、様々な利用者やスタッフに出会い、さまざまな影響を受けた。多くの人と話すことによって、自分を表現するためにはどうしたらよいかも試行錯誤し、自分は何者なのか、どのような存在であればよいのかということも自民自答した。他者を理解するためにはどうしたらよいかも考えた。このように学生たちは自己形成を図ることができたのは、やはりご協力いただいたNPOがあったからこそである。NPOが地域にとってかけがえのない存在であることも、実感した。

地域で起きている問題をさらに深めるような研究を進めたことは、とても良い効果をもたらした。

それは、学生たちが実際の生活課題・地域課題に直面し、それを自ら調査し、グループ討議し、発表するプロセスを経験できたからである。一般的にいて、2年生の段階で学生たちはこのような研究方法は獲得されていないからこそ、このようなことが求められるのである。

それぞれのNPOが運営費の確保等に苦慮していること、行政の支援が不十分なこと、さらに地域の理解を得るための様々な取組みが必要なことなども、文字通り体感したのである。

これらは、いずれもこのサービslラーニングというプログラム（学び）によって、なし得たものである。学生たちはこのことに確信を持って今後も学び続けてほしいと考える。活動させていただいた団体との交流も大切にしていきたい。

来年度に向けては、事前準備の改善拡充、NPOとの一層の連携強化などを図る必要があるが、さらにプログラムの充実を図っていきたい。